

# 施設側にも実り多い

久山療育園は、主に重い障害のある人たちが長期入所している施設です。38年前の開園当初から在宅の人の一時預かりもしています。社会の拠点として、在宅支援を志して来たからです。

在宅の保護者は、預けるのに抵抗がある人が大半です。自分と一精が子どもの一番の幸せだと思っている。身を削って介護しているのだから、気持ちほまふ分かります。

しかし親が突然倒れた時、いきなり知らない重症児者を預かるのは難しい。今は必要なくても、なじみの預かり先をつくることは大切ではない



宮崎 信義さん(86)

みやざき・のぶよし 1947年生まれ。呼吸器内科の医師。96年から久山療育園のセンター長。同園は94床のうち6床を短期入所用のベッドにしており、9歳~40歳代の68人が登録している。

求められますが、1人で複数を見る看護師らが同じようにやるのは難しい。収入は医療入院の2分の1から3分の1程度。正直に言えば、労多くして益少ないです。急性期病院ながら抵抗を承すのも無理はないでしょう。

ただ、当初は肯定的なスタッフも、在宅の親子と知り合うと「受け入れようよ」と愛わっていきます。24時間介護する家族がとても疲れているのを目の当たりにして、短期入所が、生活をまえる命綱だと分かるからです。

短期入所のおかげで園も成長しています。無理難題と思える親たちの要望も、いつの間にか楽になっていく。きつくてありがたいがあります。きれいな事じゃなくな。子どもにとっても社会に被

れる良い機会になる。職員や他の入所者も含めて、すごい笑顔で笑おうとします。医療が進歩し、重症児者が親より長生きする時代。子どもの自立のために、利用してほしいです。

理想的な一時預かりは、安全、安心、楽しさがそろった。安全には医療の助けが不可欠で、報酬を上げ、ベッドの運用も柔軟にするなどもっと使いやすい制度に変えるべきでは。安心と楽しさを果たすには、もっと地域に担い手が増えることが必要でしょう。親たちの願いがシステムをつくる原動力だと信じています。

短期入所 重い障害児・者を病院などで一時的に預かる福祉サービス。自宅介護する親たちの負担軽減策の一つ。療育施設や、医療的ケアに対応する施設は「短期入所」と呼ばれる。

## 理想の一時預かりを考える③



でしようか。うちが普通の病院と違って、医師や看護師のほか、介護福祉士や保育士など福祉職の職員も働いています。施設の方から言えば、短期入所は大変な事業です。人工呼吸器を着けていたり、けいれんを起こしたりと医療が高レベル。何が必要かもおぼつかない。事業の形態は

ど二人一人差なので、事前の診察や打ち合わせなど、複数スタッフが慎重に準備します。検温など感染予防も入念です。こうして手間をかけても、保護者からは古情の方が多い。「こころいう音がしたらけいれんが起きる」とか「けいれんしている間はずっと抱いてあげて」とか。1対1でしている園児のケアを園でも